



©Yuki Asada

## 手織りの綿布、電波塔と出会う

ブッダガヤ<sup>しゃか</sup>。釈迦が悟りを開いた地、世界遺産の大菩提寺を擁する観光地だ。しかし、ブッダガヤがあるビハール州はインドで最も貧しい地域の一つで、乾期には餓死者も出る。

nimai-nitai代表の廣中桃子さんは、大学卒業の年、ボランティア旅行の途中で、インドでもひととき貧しいブッダガヤの人々に出会った。子どもの保護施設で短いボランティア活動を終え、「また戻ってくる」と伝えたとき、一人の子どもが答えたという。「外国人はみんなそう言うけど、本当に戻ってきてくれた人はいない」。

その言葉が胸に刺さり、廣中さんは、その後も毎年、現地に通った。2009年からは手作りのカディ製品を日本で売り始

めた。カディはガンジーが広め、インドの自立の象徴となった手織りの綿布だ。

現在はnimai-nitaiのブランドのほか、そのコンセプトと品質に目を留めたフェアトレードショップ「エシカル・ペネロープ」から依頼されたオリジナル商品も製作している。店舗がある名古屋テレビ塔柄のハンカチもその一つ。同店が扱うテレビ塔グッズの一つで、カディの中でも特に細い糸で織られたモスリンカディに、ブッダガヤの工房で最も腕の良い4人の女性が、丁寧な刺しゅうを施す。

nimai-nitaiの製品タグには、一つ一つに作り手の名前が書かれている。自分が手にとった製品の作り手に思いをはせることが、いつかは作り手と買い手の心をつなぐというのが、廣中さんの考えだ。



テレビ塔の形に苦戦もしたが、丁寧な手作業で仕上げていく

- ★インド製のテレビ塔ハンカチを2人にプレゼント！  
→詳細は38ページへ
- ★nimai-nitaiの製品はフェアトレードショップ「エシカル・ペネロープ」(名古屋テレビ塔1階)などで購入可能。テレビ塔ハンカチは「エシカル・ペネロープ」の限定商品。
- ★その他の取り扱い情報は、nimai-nitai HP (<http://nimai-nitai.jp/>)まで

